

◆ 平成30年度 活動報告シート ◆

団体名：第9回低炭素まちづくりフォーラム in 埼玉実行委員会

21A-33

代表者：実行委員長 江田元之

URL :

1. 活動が必要とされた状況

県内の環境活動をさらに活性化させるためには、個々の活動（点）が繋がり、線になり面になるプラットフォーム的な場と役割が必要である。環境活動を行っているメンバー等が一堂に会し、情報交換など交流の場を持つことにより、活動が推進されることが期待される。さらに若者からシニアまで、世代を超えた意見交換の場から相互理解が深まる必要性を感じている。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

第9回低炭素まちづくりフォーラム in 埼玉

～つながろう 広がろう エコの環～開催

実施時期 平成30年12月1日（土）

参加人数 445名

開催会場 芝浦工業大学大宮キャンパス、他

※地球温暖化防止活動推進員、自治体、環境団体、企業等を構成員とする実行委員会を組織し、企画・運営・準備を行った。フォーラム当日は講演会、6分科会を開催した。



<フォーラムの内容>

講演会 基調講演「SDGs 達成へ向けた芝浦工業大学の挑戦」

講師 村上 雅人氏（芝浦工業大学学長）

分科会 「明日から未来につなげる家庭の省エネ術」、「知ろう、語ろう、世代を超えて」
「川の保全と生態系」、「マイクロプラスチックごみ問題」、他2分科会

3. 活動の成果

- ・芝浦工業大学と共催したため、大学側からの呼びかけにより多くの学生の参加が得られ、交流を深めることができた。また、大学側が学生の運営参加を積極的に支援してくれた。
- ・今回は特に SDGs の視点を取り入れた。
- ・埼玉県のコミットもあり、今回はエコライフ DAY の表彰式を開催した。
- ・環境ネットワーク埼玉が事務局支援を行い、スムーズに活動を行うことができた。
- ・分科会では学生や企業向けの活動発表も取り入れられ、内容の濃いものであった。
- ・今年度は特に展示会を設置することができ、SDGs の取組企業の参加を得ることができた。

4. 今後に残された課題

- ・早めに準備しているにも関わらず、運営や準備、報告書の発行が遅延しがち。スケジュール通りに運営していくことが必要。
- ・継続的に議論することが必要であるため、開催場所の決定や分科会の内容等を早期に決定する必要がある。
- ・行政（市町村）や企業の参加をどう促していくか。分科会の内容についても検討が必要。
- ・さらなる県内の大学との連携が課題。
- ・次年度は10回目となるため、継続を目指し企画やアイデア、広報等の仕掛けが必要。
- ・実行委員が固定化し比較的高齢化している。若い人の参加をどう促すか工夫が必要。